

# 令和元年度 船橋市病院事業計画

## ● 事業概要

### I 診療科目 31 科

内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・代謝内科・緩和ケア内科・腫瘍内科・脳神経内科  
腎臓内科・精神科・リウマチ科・小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・整形外科・形成外科・  
脳神経外科・呼吸器外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科  
リハビリテーション科・放射線診断科・放射線治療科・麻酔科・歯科口腔外科・救急科

### II 病床数

一般病床 449 床（緩和ケア病棟：20床、その他：429床）

### III 施設

A館 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上8階建  
B館 鉄筋コンクリート造 地上6階建  
C館 鉄筋コンクリート造 地上5階建  
D館 鉄筋コンクリート造 地上3階建  
E館 鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階建  
感染症外来診察室 鉄骨造 平屋建  
院外看護師宿舎 鉄筋コンクリート造 地上5階建一部3階建  
厨房休憩室 鉄筋造 地上2階建  
立体駐車場 鉄骨造 地上3階屋上建  
車庫 鉄骨造 平屋建  
保育棟 鉄骨造 平屋建  
(旧)保育棟 軽量鉄骨造 平屋建

## ● 事業計画(中期経営計画の目標値)

### I 患者数等

#### 1. 病院全体

入院	年間延べ患者数（一般・救急病床）：	134,250 人
	年間延べ患者数（緩和ケア病棟）：	6,590 人
	新入院患者数	13,940 人
	1日平均患者数：	386 人
外来	年間延べ患者数：	228,870 人
	初診患者数（一般）	21,530 人
	1日平均患者数：	921 人

## 【内訳】

### (1)一般病床

入院	年間延べ患者数：	54,100 人
	1日平均患者数：	148 人
外来	年間延べ患者数：	216,430 人
	1日平均患者数：	887 人

### (2)救急病床(2次+3次)

入院	年間患者数：	80,150 人
	2次 年間延べ患者数：	76,830 人
	1日平均患者数：	210 人
	3次 年間延べ患者数：	3,320 人
	1日平均患者数：	9 人
外来	年間延べ患者数：	12,440 人
	1日平均患者数：	34 人

### (3)緩和ケア病棟

入院	年間延べ患者数：	6,590 人
	1日平均患者数：	18 人

## II 病床稼働率等

1. 病床稼働率 (一般)	85.5 %以上
2. 平均在院日数	10.0 日以下

## III 紹介率・逆紹介率

1. 紹介率	62.0 %以上
2. 逆紹介率	100.0 %以上

# 令和元年度の取り組み

## 1.安定した病院経営

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	元年度目標	元年度に実施する予定のこと
収入の確保	患者数の増	新入院・初診患者の増	新入院患者数 13,940人 初診患者数 21,530人	連携医予約センターの充実 診療科の医師による連携医訪問の継続 外来ブースの増加と有効活用の検討 効率的なベッドコントロールシステムの検討
		紹介率・逆紹介率の上昇	紹介率 70% 逆紹介率 100%	紹介率 ・連携医訪問 ・患者直接診療予約の開始 逆紹介率 ・退院患者リストの院内医師向け配付、逆紹介(返書) 作成依頼 ・返書管理 その他 ・連携医リーフレットの作成・院内配架
		病床稼働率・回転率の上昇	病床稼働率 85.5% DPCⅡ期間までに退院した割合 74%以上	ベッド利用状況を電子カルテにタイムリーに表示、分析、目標値の修正 PFMIに向けた体制作り
	診療報酬請求の最適化	診療報酬改定への対応	次期改定に向けて新たな施設基準の取得を検討する	10月に予定されている消費税率引き上げに伴う診療報酬改定に対応する 平成32年度診療報酬改定に向けて早期の情報収集に努め、取得可能な施設基準の洗い出しを進める
		DPCの適正なコーディング	コーディング委員会の開催:年4回	コーディング委員会を年4回開催する
		取り漏れ等への対応	診療現場におけるオーダー・薬剤のチェック両者ともに完全一致をめざす	電子カルテと医事システムとの連携の確認・修正を行う
		査定減の減少	査定率:0.2%以下 高額請求の査定件数:150件 高額請求の査定点数:2,000,000点	査定分析システムを導入し、査定原因をこれまで以上に精密に分析していく
	未収金対策	未収金の早期回収	臨戸徴収:月2回以上 催告書発送:年3回以上	夜間・休日を含め臨戸徴収を月2回以上実施する 催告書を年3回以上送付する
	その他の収入確保策	手術室の効率的な運用	A館手術室稼働率 77% E館手術室稼働率 25%	E館手術室の利用率を上げ、A館手術室枠をより有効に活用する
		緊急、準急手術の積極的な受け入れを行う	全身麻酔件数 2,700件	緊急手術を効率的に受け入れられるよう手術室を調整する
		がん患者指導管理料算定件数を増加させる	管理料イ:500件 管理料ロ:500件 管理料ハ:250件	管理料イから管理料ロへと繋げていく 管理料算定の少ない診療科に対して、個別に件数増加のための対策を考えていく 緩和ケア認定看護師の増員
		全入院患者への服薬指導の実施	服薬指導実施件数 23,650件 服薬指導実施率 90%以上	未実施患者の抽出 チームリーダーから担当者への促し
		リンパ浮腫複合的治療の算定	リンパ浮腫複合的治療年間実施件数 1(重症) 24件/年 2(1以外) 40件/年	リンパ浮腫外来月2回 リンパ浮腫指導管理対象患者の周知
		ADL維持向上等体制加算の算定	1病棟算定継続 その他病棟算定開始	A6病棟ADL維持向上等体制加算算定継続 A6病棟専任職員を配置し、休みなく算定できるようにする B6病棟4月から3カ月間実績、7月届出、8月算定開始
支出の削減		診療材料費の削減	購入物流委員会により新規採用材料の厳密な選定を行う	他の取り組みと合せて、入院・外来収益に占める診療材料費の比率16.0%(28年度実績)に抑える
	医療材料の使用ルールの確立と推進		当センターにおけるベンチマーク導入	ベンチマークを導入し、診療材料購入の際の参考資料として活用する
	同種同効品への切り替えによる、より安価な物品への変更		年間400万円の削減	引き続き、購入物流委員会において、材料の切り替え提案を行う 価格を抑えるよう業者との打ち合わせを密に行う
	薬品費の削減	採用薬品の厳密な選定	入院・外来収益に占める薬品費の比率:12.4%(30年度実績)を維持	高額医薬品の値引き率を維持するため、業者との話し合いを密に行う
		後発医薬品への切り替え	後発医薬品比率: 数量ベース 90% 後発品目ベース(後発品販売のあるもの) 62.5%	薬事委員会において、後発品への切り替え申請を積極的に行っていく
		同種同効薬の見直し	採用品目数 1,200品目以下	一増一減の堅持と不動薬品の採用削除を推進していく ※新開設科用の増あり
	委託費の抑制	委託業務の安定した遂行を図るために、委託費用の引き上げを含む業務の見直しを行う 委託業務の統廃合について調査研究を行う	医業収益に占める委託費の比率を8.8%に抑える	医事管理業務委託及び病院情報システム運用管理業務委託について、債務負担行為を設定することにより、引き継ぎ期間を考慮した入札により円滑な業務の遂行と入札事務の効率化を図る

## 令和元年度の取り組み

### 2.安全で信頼される医療の提供(医療の質の向上)

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	元年度目標	元年度に実施する予定のこと	
医療安全管理体制の充実	安全管理対策と予防	インシデント報告件数の増	6,900件	委員会等でのインシデントレポート作成の啓発 インシデントレポートによる医療安全に対する効果の報告	
		医療安全マニュアルの見直し	年12回実施	マニュアルの見直し、作成及び医療安全対策文書の作成	
	有害事象への対応	有害事象への対応研修の実施及び職員の確保	研修会の開催 年2回	研修の実施 人員の確保及び育成	
診療密度の上昇	平均在院日数の短縮	平均在院日数の短縮	平均在院日数 10日	患者サポート室の充実 退院支援の充実 パスの充実	
		院内心不全パス、心不全地域連携パスの作成、運用を開始する 心不全終末期患者への意志決定支援、アドバンス・ケア・プランの実施	地域連携パスを年間10件運用する	心不全手帳の交付の推進 心不全手帳、地域連携パスの地域への紹介を引き続き行う	
	重症度、医療・看護必要度の上昇	平成30年度診療報酬改定に伴い新評価基準での基準越え患者割合をクリア、維持する 平成32年度診療報酬改定に迅速に対応する H/EFファイルとの突合により、医事コスト漏れを防止する DPCデータと看護必要度データをもとに入院患者データ・業務量を可視化し、病床再編、人員配置等に活用する	急性期一般入院料1の基準をクリアする	コスト伝票の評価と修正でコスト漏れを防ぐ A項目過剰評価率をチェックしEFファイルとHファイルを適合させる	
クリニカルパスの整備	効率の良い医療を提供するためのクリニカルパスの整備	現在使用しているクリニカルパスを見直し、修正する作業(PCDAサイクル)を推進する 新規クリニカルパス作成を推進する	見直すパスの数 60件 パス適用患者数 7,250人 新規パス件数 10件 パス適用率 58%	クリニカルパス大会(3回/年) パス学会で発表を行う(1題以上)	
施設・設備及び医療機器等の計画的な整備	医療機器の整備	当院の使命である、急性期医療及び高度医療を提供するための総合診療機能を維持するため、計画的な医療機器の更新及び新規導入を行う	MR1号機のバージョンアップ	計画的に実施する	
	システムの計画的な更新	計画的なシステムの更新	病理検査システム 生理検査システム 診療費自動精算システム バーチャルスライドシステム 3D医用画像解析システム	計画的に更新する	
患者サービスの向上	患者サポート室の充実	診療科の拡充に伴う患者数の増加	予定入院患者のうち患者サポートセンターで対応する患者割合を6割以上とし、かつ原則手術治療前日・当日入院とする	形成外科、心臓血管外科、代謝内科、呼吸器内科(化学療法)等への導入	
	外来待ち時間の短縮	外来待ち時間調査、診療科ごとの目標値設定、逆紹介推進、DAの導入、看護師相談・説明の構築 外来診療枠見直し	診察予約時間1時間以内診察 70%以上 外来会計待ち時間 12.1分(30年度実績)の維持	外来待ち時間調査 診療科ごとの目標値設定 逆紹介推進 DAの導入、看護師相談・説明の構築 外来診療枠見直し	
	患者満足度の向上	患者満足度調査、あいさつ運動、診療予約センターの検討と取り組み、インフォメーションの充実、クラークの患者説明の推進	患者満足度調査 「ほとんど良い」以上の割合 85%以上	患者満足度調査、あいさつ運動、インフォメーションでの意見、院長の手紙から改善をする	
	情報提供の推進	公開医療講座の充実	公開医療講座の充実	年4回実施	継続して実施する (公開医療講座 年3回、がん市民講座 年1回) PR活動を行う
		図書館での医療講演会・医療相談会の充実	図書館での医療講演会・医療相談会の充実	年12回実施	年12回実施の継続 当院のPR活動 がん冊子配布と医療情報コーナーでの助言
		HPの充実	HPの充実	ホームページをリニューアルする	平成30年度に作成した仕様等を見直し、再度プロポーザルを実施する
接遇の向上	接遇研修の充実	接遇研修の充実	合計4回	平成30年度と同様にボスマネジメント研修を行う	
ボランティアの活用	ボランティアの活動内容および活動時間の拡大	ボランティアの活動内容および活動時間の拡大	ボランティア数 20人	・広報ふなばしへの募集記事掲載 ・ボランティア研修 ・市の善行表彰への推薦	

## 令和元年度の取り組み

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	元年度目標	元年度に実施する予定のこと
良質なチーム医療	良質な人材の確保	初期研修医からの確保、専攻医(専修医)の育成、大学との提携	緩和ケア医、精神科医、病理医、放射線診断医、麻酔医、救急医、集中治療医等を1名確保	専攻医を積極的に受け入れ、育成する 大学との連携を深める
		看護師の確保・育成	後述の認定資格等の取得の目標を達成する	夜勤専従看護師の導入 新病院に向けて採用計画を作成する
	チーム医療の充実	栄養サポートチーム(NST)の充実	NST加算件数 500件以上を維持していく	入院中の栄養管理の充実
		リエゾンセンターを拠点に活動するチームの充実	精神科リエゾンチームでのカンファレンス 毎日 合同のチームメンバーで回診、カンファレンス 実施回数 週1回 リエゾンセンター勉強会実施回数 年3回以上	サポートケアチーム、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチームの合同のチームメンバーで回診、カンファレンスをおこなう  勉強会を開催し、リエゾンに関する各疾患の普及に努める
		ドクターエイドの活用	医師事務作業補助体制加算 15:1の維持	ドクターエイド業務の拡大(病棟回診、外来診療の補助を拡大する)
	急性期リハビリテーションの充実	土曜日稼働の拡充	平成29年度実施率 50%より10%増加	STの土曜出勤者増員
	働きやすい職場	職員満足度の向上及び離職率低下	職員満足度 満足、ほぼ満足80% 看護職離職率 全体9%、新人7% 台 年次休暇消化日数 前年度より10%増 超過勤務減少 前年度より10%減	職員満足度調査
	子育て支援	院内保育所の活用	通常保育利用者31人 二重保育利用者の増加 夜間育児利用者の増加 GW・年末年始の保育の実施	院内保育使用状況の評価
育児短時間勤務を取得しやすい環境づくり		制度を周知する説明会 職員向け1回	制度を周知する説明会を開催する	

### 3.高度急性期病院の機能の充実

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	元年度目標	元年度に実施する予定のこと
救命救急センターの充実	断らない体制の強化	救急患者の受け入れ強化	救急車の受け入れ台数 4,400台	救急医を確保して救急当直のシフト制導入を検討する
	三次救急患者の受け入れ増	三次救急患者数の増	1,325人	救急医を確保して救急当直のシフト制導入を検討する
	重度外傷センターの充実	外傷患者に集学的かつ専門的な緊急医療サービスを提供する	外科系外傷救急患者 300例	各科に紹介があったり、あるいは救命救急センターで受け入れ、コンサルトを必要とする患者に関しては血管、神経損傷以外はすべて受け入れる
	脳卒中センターの開設	脳神経外科が中心となり、脳神経内科、メディカルスタッフからなる脳卒中センターを立ち上げ、包括的な脳卒中診療を行う	SCU利用率 95%以上	脳卒中患者の全例を受け入れる 院内発症に備え、脳卒中についての講習会を行う
地域がん診療連携拠点病院の充実	体制の整備	将来的に指定要件が厳格化されることを見込んだ整備	令和元年度に地域がん診療連携拠点病院として提出する平成30年のがん検診率 28%  「いろんなつらさの間診票」の件数 261件  緩和ケア講習受講率 自施設に所属する臨床研修医及び1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師が当該研修を修了する体制を整備する  緩和ケアリンクナースの配置 必要全部署  緩和ケアセンターの設立	症状緩和に係るクリニカルパスの整備  緩和ケア講習会について、これまで受講していない診療科の医師達に対しても積極的に受講するように促していく
			緩和ケア専従医を確保し、緩和ケア病棟の運営充実を図る	緩和ケア専従医1名の確保 緩和ケア病棟稼働率 90%
	乳腺センターの開設	乳腺外科、形成外科、放射線治療科、病理検査室、乳がん認定看護師、薬剤局などの各部門がさらに密接に連携し、ひとりの乳がん患者の診療の充実を図る	乳腺疾患手術例 300例以上/年 遺伝カウンセリング 20例/年	遺伝カウンセリング外来の開設、他施設との連携強化

## 令和元年度の取り組み

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	元年度目標	元年度に実施する予定のこと
地域医療支援病院の強化	前方連携の強化	連携医訪問の実施	連携医訪問件数 100件	訪問先選定の検討 訪問先連携医からの要望・苦情等の収集、病院運営への反映
		胃がん検診の推進	前年度の1割増	経鼻内視鏡による検診の導入を検討する
		連携医優先予約診療患者数の増	4,050人	連携医訪問 連携医側が利用しやすい予約システムの提供 返書管理 予約枠の適正化
		診療依頼を断らない体制の強化	診療依頼は原則全員受け入れる	各診療科に責任者(原則として部長)を設定し、責任者が窓口となり、連携医からの診療依頼に対応する
	後方連携の強化	退院支援の充実	入退院支援加算1 6,720件 介護支援等連携指導料 700件 退院時共同指導料2 160件	入院支援から退院支援へのシームレスな連携強化システムづくり 入退院支援室(案)の新設
		連携システムの確立(療養先選択肢の拡大)	転院先となる病院・介護施設等の訪問年間12件	病院との連携強化 病院等の特徴についての調査・整理
		退院調整看護師の積極的な活用(訪問看護ステーション設置の検討)	退院前・退院後訪問指導 30件 在宅患者訪問看護指導料 5件	退院支援看護師を患者支援センターに配置し、訪問指導がしやすい体制をつくる
災害拠点病院の充実	災害時における体制の整備	災害時の対応について訓練を実施すると共に、防災マニュアルを定期的に見直す 災害に備える対策と災害後の病院機能復帰への対策(BCP)を策定し、定期的に見直す DMATの充実を図る	防災マニュアル・BCPを見直す 防災訓練の実施 年1回 DMAT隊員2名の増員	防災委員会等で防災マニュアル・BCPを見直す
		災害時の備蓄薬品等について、保健所、薬剤師会と連携体制を構築する	船橋市保健所、船橋薬剤師会、近隣病院との連携強化	地域協議会へ必ず出席する

### 4.教育・研修等の充実

中項目	小項目	中期経営計画上で実施するとされていること	元年度目標	元年度に実施する予定のこと
臨床研究部の充実	治験実施件数の増加	治験実施件数を維持できる院内体制整備 精度管理に関する整備	年間9件の新規治験の受託	実施診療科を拡充 実績率の安定
教育・研修等の充実	先進医療に対応できる医療職の育成	学術発表(学会発表・論文作成)を促進し、これをサポートする	論文 30編 学会発表 100回	学会発表の参加費を助成する
	看護師の専門性の向上	認定資格等の取得	特定行為研修に2名以上(感染関連、創傷関連、呼吸器関連、循環器関連) 認定看護師2名	現在の認定看護師に特定行為研修の受講の推進、勤務調整
	薬剤師の専門性の向上	認定薬剤師の育成	日本病院薬剤師会基礎認定取得 2名	認定薬剤師取得の支援
	メディカルスタッフの専門性の向上	資格認定等の取得	新たな認定資格の取得 ・臨床検査技師 3名 ・放射線技師 1名 ・臨床工学技師 1名 ・理学療法士 2名 ・作業療法士 1名 現在の認定資格の維持 ・管理栄養士	新たな認定資格の取得あるいは現在の認定取得を維持していく
	事務の専門性の向上	事務局内の専門研修を実施する 外部の専門的研修への参加	・内部研修 6回 ・外部研修 50人	DPCの制度、診療報酬制度、病院事業会計、予算・決算及び物品調達についてなど病院経営を行う中で事務局の全職員が知識として持つべき分野について研修を行う 外部研修への参加を積極的に促し、参加し易くする
	病院職員の意識改革	講演会の開催	年1回	引き続き年1回講演会を実施する
	臨床研修病院の充実	臨床研修病院として、卒後研修教育に力を注ぎ、将来地域に還元できるような医師を育成する	12名フルマッチ 令和2年度からの新プログラムへの取り組み 研修医の待遇の改善に配慮	研修希望者が増加するよう、引き続きプログラムの充実等に取り組む
新医師専門医制度への対応	新しい医師専門医制度に対応し、多くの専攻医が集まり、専攻医を育成する体制を作る	基幹施設の4領域について、新たに各1名の専攻医を受け入れる	新専門医制度の内科基幹施設の取得に向けて準備する	